

2008年6月20日発行

第86号



友の会ニュース

発行所
 神奈川県建設協同組合
 〒216-0011川崎市宮前区犬蔵1-4-14
 TEL044-976-1151
 FAX044-976-0557
 フリーダイヤル0120-633-306
 定価10円
 発行人 白田武美
 編集人 伊藤 実

伐つて植えるから地球環境に良い

●**樹木は光合成によって二酸化炭素をブドウ糖に変化させ樹木の中に封じ込める**

日本の住まい手は木造住宅を好む方が圧倒的多数を占めています。その理由は日本が山国であり、国土の3分の2が森林となつていいるため、自然に木に親しんでいるからです。また森林のうち約5割が天然林、4割が人工林、残りが無立木地、竹林などで、先進国の中では有数の森林大国といえます。

しかし、木造住宅を建てるときに、「木を伐ることは地球環境に悪いのではないか」と考えたことはありませんか。確かに木を伐るだけではダメです。人工林では、同時に植林も行っています。よく誤解されることですが、木を伐つて新たに植林することで、かえって環境への負荷が低くなるのです。

樹木は太陽光と二酸化炭素と水を吸収し光合成を行い、酸素とブドウ糖を発生させます。二酸化炭素という気体が樹木によってブドウ糖という固体に変わり樹木の中に封じ込められるのです。いわば樹木は二酸化炭素固定装置なのです。

●**新しい苗木を植えるほうが二酸化炭素吸着量が多くなる**

伐採を行った人工林で植林を行った場合、一年目から4年目ぐらいたままで、加速度的に成長していきます。それを過ぎると、成長が鈍化していきます。

また、1本1本の木は成長を続けませんが、それ以外の芽が出てくる可能性は低くなるのです。そうすると、森林全体の二酸化炭素吸収量はどんどん減っていくこととなります。

そのため、人工林であれば、伐採して木材を利用し、新しい苗木を植える方がほうが二酸化炭素吸着量が多くなります。地球温暖化防止にはプラスに働きます。また、新たな芽を出させるという意味で間伐材をどんどん使うべきであることも理解いただけると思います。

●**木材だけが持続可能な唯一の資源**

木を伐採して家を建て、同時に植林し、その木材で33年間家を持たせ、それを解体して古材を再加工し家具などを作り17年間使用すれば、合計で50年で木を使えることとなります。同時に伐採時に植えた木が50年後のその時に新しい木材として利用できます。



使用する木材の量が成長する樹木の量を超えない限り50年サイクルで次の森が生まれ出されるので永

久に持続可能な資源となりうるのです。しっかりとした丈夫な木造住宅を作ることは、それだけで環境にやさしいのです。

また、木材は加工時のエネルギー消費が少なく、鉄骨やコンクリートと比べると圧倒的に二酸化炭素排出量が少ないのです。



◇ 一時期、材木利用に関する誤った教育と情報流出がなされていきました。

◇ テレビでは、開発業者が熱帯林で巨木を伐採するシーンや、どんどん切り開かれていくアマゾン川流域の衝撃的な映像が流され、あたかも木を伐ること自体が悪いことのように取り上げられてきました。

木を無計画に伐るだけではダメですが、同時に植林を行うことで大いなる環境貢献をしているのです。

今、日本の林業の現状は厳しいものです。手入れの行き届かない人工林は土砂崩れなど災害をひきおこします。日本の林業を守り、ささえ、地球環境にも良い影響を与えるために、無計画に伐採された樹木を使わず、出所のはっきりした国産材を使用して丈夫な住宅を建て、それを長く使うことが、何より重要だと考えます。